

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスびじゅん		
○保護者評価実施期間	令和8年1月21日		～ 令和8年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和8年1月21日		～ 令和8年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	レクリエーション活動による成功体験の提供	食育レクリエーションでは児童それぞれの役割を担いながら達成感や成功体験を得られるよう支援し、食べず嫌いの軽減にも繋がるよう取り組んでいる。包丁や火を使用する場面ではスタッフが安全面を十分にサポートし、児童だけでなく幼児も参加しやすい環境づくりを行っている。また、外出レクリエーションでは遊びを通して外部の子どもたちとも自然に関わりが持てる配慮をして交流の輪に入りやすい雰囲気を作ることで、外部とのコミュニケーションも促している。	今後も繰り返し食育レクリエーションを行なうことで各野菜の切り方や料理行程を少しずつ覚えてもらうことや応用した料理にも挑戦したり、役割を持ちながら達成感を得られる機会を増やし、見通しをもって行動できるように取り組み、食への興味に繋がるよう支援を続けていく。
2	保護者支援・連携の充実	日頃から保護者との信頼関係を大切に、送迎時の声掛けを通して日々の様子を丁寧に共有するよう努めている。また、必要に応じて面談の機会を設け、保護者の不安や相談に寄り添いながら家庭と連携した支援に繋げている。加えて電話での相談や連絡にも柔軟に対応し、保護者が相談しやすい体制づくりを心掛けている。	今後も保護者との信頼関係をより深めるため、送迎時の声掛けや電話対応、面談等を通じて継続的に意見の把握に努める。また、保護者からの声や支援の振り返りとともにPDCAサイクルを意識した支援の見直しを行い、より安心して相談できる体制づくりに繋げる。引き続き職員間で情報共有を行いながら業務改善に努め、家庭と連携した支援の充実を図っていく。
3	指先訓練を取り入れた制作活動を通じての達成感と協同の支援	季節に合わせた壁面装飾(折り紙)や、50音表、カルタ作りなどの作品を通して指先の感覚トレーニングに取り組んでいる。制作活動では、子どもたちが協力して1つの作品完成させる楽しさを味わえるよう支援している。また、完成した作品は外部からも見える場所に展示し、子ども達が達成感を感じられる機会を設けるとともに、地域の方にも作品を楽しんでもらえるよう公開している。	季節にこだわった作品だけでなく、状況に応じて子ども達のブームに沿ったものや子ども達の提案を踏まえ、活動内容を工夫して作品作りを行う。子どもたち一人ひとりが楽しみながら指先の感覚や集中力を高められる機会を増やしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人材の定着と確保	面接時に勤務条件等について十分に説明し、長く働いていただくように努めているが、伴侶の転勤や出産・育児、介護、病気等の家庭事情に加え、賃金の好条件による転職など継続勤務が難しくなる要因が生じる場合がある。	職員が安心して長期的に勤めることができるようにキャリア面談や相談をしやすい環境作りに努めていく。また、退職の申し出があった際には職員の事情を尊重しつつ、働きやすい体制の整備を検討していく。
2	送迎時間の希望への対応	送迎車が2台で運行しているため、保護者様の希望する時間帯が重なった場合、希望通りの時間での対応が難しくなることがある。	保護者様と密に相談を行い、時間調整や代替案の提案を行うことで、可能な限り希望に沿った対応を努めていく。また必要に応じて保護者様の送迎協力についても相談しながら柔軟に対応していく。
3	施設環境整備(バリアフリー化)	トイレには手すりを設置しているものの、施設全体として十分なバリアフリー化が整っていない。現在の利用者様には大きな支障がないため、現時点で優先度が低い状況である。	今後利用児童の状況や必要性が生じた場合には、保護者様と相談のうえ、環境整備について前向きに検討し、安心して利用出来る体制づくりを進めていく。